

十島村教育委員会だより 平成24年1月号

たわやがたカラ情報

発行元 十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771
E-mail toshima-ky@tokara.jp

心に残る先生

耕心(こうしん)

平島小・中学校長 田中文彦

鹿児島市内のT小学校に勤務していた1年目の時のことである。理科専科で赴任した私には、当然のこととして農園の管理が任されることになった。草花栽培などを主とした緑化活動の進め方については、前任校で先輩の先生方からたたき込まれているものの、農業経験がほとんどない自分に務まるものと不安で一杯であった。

そんな時、一緒に赴任してきたN教頭に「君は農園の管理ができるのか」と聞かれ、ほとんど自信がないことを伝えると、「分かった、じゃあ一緒にやりましょう」と言ってくださり、今までの不安な気持ちが少しだけ和らいだ。

4月半ば、家庭訪問の時期になり空いた時間ができると、草刈りに取りかかることになり、N教頭が草刈機の取扱い方について説明、実演した後、いよいよ自分も始めることになった。

二日間ほど二人で草刈りをしたが、「今日は忙しいから一人でやっておいてくれ」と言われ、これまでN教頭に手伝ってもらった場所も一人ですることになった。入り組んだ場所や畦の傾斜地に悪戦苦闘していると、N教頭が冷たい缶コーヒーを持ってひょっこり現れ、「頑張っているね、うまくなったね」と声をかけてくださった。日差しと慣れない作業で汗だくの中、いただいた缶コーヒーの味は今でも忘れられない。今になって思えば、「手本をみせて・一緒にになって・させる」という指導を受けていたのだと考えることであった。

草刈りが終わると耕運機を使って農地を耕す作業に入った。土を耕した後にしてくる匂いは、どこか懐かしい香りがし、自然の恵みの根源を思わせるような気持ちが出て心を落ち着かせるが、慣れない作業を幾日も続けていると投げ出したい気持ちになってきた。そんな時、はっと農園入口の柱に刻まれた文字を思い出した。その文字は「耕心」。一抱えはある太い杉の柱に大きく深く刻み込まれていた。この文字は、I町のM教育長がT小学校に勤務していた時つくられた柱に入れた文字である。土を耕すと同時に自分の心を耕す、という意味だが今の自分にはこの気持ちが足りないと思い、この農園管理と言う作業を通して自分の心を耕しながら自分を高めていかなければならないと考えることであった。

6月の梅雨前になると、サツマイモの植え付け作業が始まる。約4000本の苗が必要であった。N教頭に相談すると、「農協に知り合いがいるからもらいに行こう」と言うので、車で一緒に行くと、苗床にイモの苗がぎっしり生えている。「さあ、切ろうか」N教頭の言葉に唖然とした。ハサミを使い一本一本切り取り4000本そろえるのである。

午後から始まった作業は夜8時頃ようやく終わった。帰りの車の中で、教頭から「耕心」と言う言葉を知っているかと聞かれ、自分が農園管理者の仕事をする中で大切にしている言葉だと話すと、自分も好きな言葉だと話された。「土を耕し心を耕す・土を耕し心を休める・土を耕す人の心を知る」など、二人でいろいろ話したことを思い出す。いつまでも大切にしたい言葉であり、忘れずにいたい気持ちである。

【 十島村教育委員会事務局職員異動 】

竹内照二教育総務課長が、1月1日付けで経済課から、福澤章二現総務課長の後任として着任しました。これからは児童生徒や地域のため、教育行政に全身全霊を傾けますので前任者同様よろしくお申し上げます。

また、2月1日付けで、福永峰子さんが山元真由美事務補助の後任として着任しました。前任者同様よろしくお申し上げます。

<福澤章二課長退任の御挨拶>

1月1日付けで、役場総務課長として転出することになりました。教育委員会在職は、9か月間でしたが、皆様方の御支援・御鞭撻に対して深く感謝いたします。

これからも村政に誠心誠意努める所存ですので、どうぞよろしくお申し上げます。

【 十島村「新成人を祝う会」島の誇りを胸に 】



今年の「十島村新成人を祝う会」は、13人の新成人を祝福すべく、成人の日(1月9日)に役場内で、敷根村長以下多くの職員、中学時代の恩師・家族・里親等の出席を得て、催されました。式に出席いただいた6人は、それぞれ成人の抱負や支えてくれた方々への感謝の思いを述べ、最後に肥後あすかさんが、代表して「いつの日か、大いなる達成感を実感できる人生を送りたい」と謝辞を述べました。確かな島の教育の足音が聞こえてくる思いでした。

出席者：写真左より

鈴木伶奈さん(宝島) 肥後あすかさん(口之島)
伊地知夏海さん(宝島) 有川 翼さん(悪石島)
日高 剛さん(平島) 中島興平さん(平島)

式典の中で、敷根村長は、「ふるさとを誇りとし、目標に向かって頑張ってほしい」原口教育長は、「軸足は、わが島々に。視線は、世界に向け、人生行路を切り開いてほしい」と出席者及び出席がかなわなかった新成人にも呼びかけました。

この様子は、遠く離れた各島々にも、テレビ会議システムを通じて流され、中学生の一人は、「私もお姉ちゃんやお兄ちゃんみたいに成人したい」と凛々しく成長した先輩の姿に敬意の念を抱いて見つめていたといひます。

新成人と中学生生活を共にされた御出席の恩師の方々。恩師の方々の語るお祝いの言葉は、まぎれもない彼らとの固い絆から紡ぎだされた思い出の言葉でした。

出席いただいた恩師の方々は、次の先生方でした。

<()内は、現在校>

口之島中：富松紀子先生(谷山中) 別府 浩先生(住吉小)
平 島中：川口 孝教頭先生(県立霧島自然ふれあいセンター)
悪石島中：是枝太士先生(隼人中) 東 達也校長先生(滑川小)
土岐邦寿教頭先生(大川中)
宝 島 中：原 常利先生(東市来中) 末永勝也教頭先生(鹿児島市教委)

島に一燈を照らした教育活動と教え子への温かい祝福に対し、感謝申し上げます。

【 入賞おめでとうございます 】

第57回青少年読書感想文全国コンクール

県入選 ・小林莉衣奈(小宝島分校中2年)
・里中 唯(小宝島分校中3年)
JICA国際協力中・高校生エッセイコンテスト
佳作 ・坂元里帆(悪石島中2年)
学校賞 ・悪石島中学校

「 子供たちの 作品 」(県PTA新聞1月号より)

ぼくの夢 ひらいずみ かいしろう
中之島小学校 4年 平泉 開翔

ぼくには、どうしてもなりたいたい夢があります。それは、お父さんと同じ牛飼になることです。

ぼくは、ときどきお父さんの仕事の手伝いをします。その時、最初はこわがっていた子牛が近寄ってきてくれたり、頭をなでさせてくれたりしたら、仲良くなれたと思って、うれしくなります。それに、ぼくは、牛の体が大きくて強そうなところや、目がやさしそうところが大好きです。角もとがっていてかっこいいと思います。

でも、ぼくには、まだこわくてできない仕事がたくさんあります。だから、一人で何でもできるお父さんはやっぱりすごいと思います。ぼくも、早くお父さんのような牛飼になりたいです。

これから牛飼になるために、たくさん勉強して、お父さんやお母さん、兄弟がびっくりするくらいの有名な牛飼になりたいです。

【十島村の小・中学校からのメッセージ】

平島小・中学校 教頭
福園 和幸

赴任した当初、暗中模索の日々が続きましたが、校長先生の御指導や県・地区・村研修会、また、地域の方々の御支援・御協力により教科指導や学校運営、日常生活にも慣れてきました。

平島では、妻と娘一人の家族同伴での生活になりますので、病気の時は？買物はどうするのだろうか等々不安はありましたが、診療所に看護師が常駐し、急を要する時は、ヘリコプターも飛びます。また、食料品も注文により週2~3回運航の「フェリーとしま」で運んでくれます。地域の方々の温かい御支援で不安は解消され、時には、釣りもしたり、盆踊りなどの地域の行事にも参加したりして家族共々楽しく充実した日々を過ごしています。

離島で極小規模(現在、児童3人生徒4人)の小中併設校における教育課程は？授業形態は？教職員の人数は？等々の不安もありましたが、複式で学年別の授業を実施。教育機器等も整備され不安は解消されています。期限付の若い先生方も教育熱心で大きく成長しています

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ

教員として、未知の地域に赴任するには、不安はありますが、鹿児島県の教師になったからには、子供のいる所で仕事をさせてもらっているという基本的な考え方に立って赴任し、有意義に過ごしています。青い海に囲まれた自然と心温かい人と人との絆の強い平島で教職生活を送ってみませんか。可愛い児童生徒たちがあなたの赴任を待っています。「和太鼓」演奏も子供たちの自慢の一つです。